大阪府・上宮高校

進路学習ノート、文理適性検査で生徒の進路意識を刺激する

ただ成績によって進路を決めるのではなく、自らの夢を実現するための果敢な進路選択であってほしい……。生徒の自己実現を支援するための進路指導に多くの高校が積極的に取り組んでいる。しかし、高校3か年の限られた指導の時間の中で、すべての生徒にその願いを伝え、1人ひとりに納得のいく進路選択を実現させるのは簡単なことではないのも事実だ。

「3年生と入試の話をしていると、『僕の成績ならどこの大学に行けますか?』というようなことを聞いてくる生徒は、残念なことですがゼロではありません。なんのために大学に行くのかということは二の次になってしまっているのです。そういった生徒は高校に入学する前から既に成績による輪切りでの進路選択が当たり前になってしまって、夢や目的を持つことに慣れていないのでしょう」

上宮高校の殿井鉄夫先生は「最近の生徒には、大それた夢を持つ者が少ない」と感じるという。

「大学入試に限らず、生徒が自分の夢や目標に向かって最大限努力し、最善の成果を得る。その結果として、進路を最終的に決められるような高校生活にしてあげたいのです」

LHRで進路学習を実施

上宮高校には総合コース、英数コース、併設の中学校からの一貫コースがある。2年次には、総合コースは国立文系・理系、私立文系・理系に、英数コースと一貫コースは国立文系・理系にそれぞれ細かくコース分けされる。国公立大志望者を対象にした英数コースはもちろんだが、総合コースの生徒も1年生の段階で文理選択に加えて志望校をある程度絞り込むことになる。

「これまでも学年全体で2年生でのコース分け、カリキュラムの違いなどについて生徒に対して説明会を実施していました。また、2学期には保護者への説明会や三者面談を実施し、生徒、保護者ともに2学期中に大まかな進路を決めるように伝えています。しかし、いくら『将来の目標から進路を決めましょう』といっても、実際はコース決定の直前になってバタバタと、しかも成績を中心に決める生徒もいました」

上宮高校に限らず文理選択を1年生の2、3学期に行う高校は多いが、入学直後の慌ただしい雰囲気から抜けきれず、じっくり落ち着いて自分の志向、適性を見極めることなく、科目の得手不得手を優先して決めてしまう生徒はどの高校にも少なからずいるようだ。「生徒が早い時期から将来のことを考えられるようなシステム作りが必要」との考えで一致した上宮高校の教師が取り組んだのが、9年度からスタートしたLHRを利用した進路学習だった。

将来像を描いてみる

6月から5回に渡って行われた進路学習では、「キャリアサポート」の進路学習ノートをサブテキストに、生徒は「将来の自分」「高校生活への期待」などを書いたり、学部系統と職業についての研究をした。

「これまでの進路指導は、ややもすると教師がしゃべりっぱなしの一方通行なものになりがちでした。しかし、生徒が書いたものを読み、彼らの言葉を聞くことで、今どんなことを考えているのかがだんだんと見えてきたのです」

簡単に「将来の自分」とはいっても、「○○大学を卒業して、××会社に就職」などと詳細に書いてくる者もいれば、ほとんどなにも書いてこない者もいる。

「なにも書いてこない生徒に『どうして書けないんだ!』といってもしかたありません。そういった生徒には『どうしたら書けるんだろう』という問いかけの姿勢で、個別面談などでフォローしていきます」

中には「どうして今、将来の夢なんて書かないといけないの?」といった反応を示す生徒もいた。しかし、そんなときこそ「生徒の疑問に答え、進路を考えることがなぜ大切なのかを理解させるチャンス」と殿井先生らは考えた。まさに教師が生徒に働きかけ、生徒に自ら考えさせる進路指導が始まったのだ。

適性検査で自分を知る

上宮高校では、1年生に対して夏休み前に「キャリアサポート」の文理適性検査を実施している。検査の結果を基に、夏休みを使って生徒にさらに自己理解を深めてもらおうというねらいである。

「生徒にはデータの信憑性よりも、自分を見つめるきっかけとして大切にしてほしいと伝えています。そして、もし自分が理系志望なのに文系向きという結果が出たなら、これまで以上にがんばって理系に進むような、未来を切り開くエネルギーを持ってほしい、と。この適性検査は自分の将来を形作っていくためのものなのです。適性検査の結果だけで進路を決めるなら、それは妥協にすぎないのですから」

最近は、教師や保護者まかせで高校生活を送ろうという傾向の生徒がめだつ、と殿井先生は語る。自分で考えて、そして自分の行動に責任を持てるような生徒になってほしい。上宮高校の進路指導の根幹はそういう思いで作り上げられている。

「生徒が自分で考えるために、私たちは今度は進路に関する情報をたくさん用意しなければなりません」

大阪府・上宮高校
殿井 鉄夫
昭和33年大阪府生まれ。生物担当。
上宮高校で教鞭を執り、17年目を迎える。
今年度は2年生の国立文系クラスの担任を務める。
進路学習の実施にあたって、中心的役割を担った。

夢を抱く生徒たち

「進路指導は生徒が刺激を受け、啓発され、そして自己を知ることができるさまざまな場を設けることともいえます。例えば、毎年発行している合格体験記は、先輩たちのがんばりから生徒のエネルギーを喚起するものです。また進路資料閲覧室では、オープンキャンパス情報をはじめ、大学・学部研究のための情報を充実させています。実際、閲覧室で進路学習ノートの課題を一生懸命調べている生徒も多いんです。今後も、進路学習ノートや文理適性検査の活用をサポートする有用な情報を、生徒に与えていきたいと考えています」

上宮高校の進路学習は今年度は2年生にまで対象を広げ、実施回数も各学年ともに8回に拡大された。取り組み2年目にして、少しずつだが生徒たちの変化が感じられる。

「放課後、教室に残って勉強する生徒が1年生にも増えてきました。また『僕は京都大で勉強したい!』と目標を掲げ、朝7時に登校し、勉強する生徒もいます。いつのまにか、その友人もいっしょに登校して勉強していますよ」

大きな夢を抱き、その夢に向かって最大限努力する生徒が着実に増えてきていることを、殿井先生は確かに実感している。